

本学創立105周年式典

日本歯科大学新聞

東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼 中原 泉
編集人 1部10円
発行日 偶数月末日
定価 1部10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500



本学のシンボルマーク

二百余名が参列

本学の創立一〇五周年記念式典は、六月一日の創立記念日に東京富士見で挙行された。

日本歯科大学創立一〇五周年記念式典は、六月一日、来賓、教職員、卒業生、学生等三百余名が参列して、生命歯学部富士見ホールにおいて挙式された。

定刻前十時半、東日

本大震災の犠牲者に黙祷を捧げたのち、司会の鈴木洋一庶務部長が開式を宣し、筑土神社祭司が神事を執り行った。

本学の一世紀余の沿革が祝詞で奏上されたのち、玉串奉奠に移り、中原泉

理事長・学長がホール壇上に設けられた神前に進み出て玉串を奉奠。参列者は、二礼二拍手一礼をもつて同拝した。

参列者を代表して、中原レチ子、小倉英夫、住友雅人、湯浅太郎の各理



創立105周年を迎えて挨拶する中原泉理事長・学長
「…日本の社会全体が沈下しているとき、逆に攻めの戦法を展開していこう」



附属病院の阿部講師のリードで校歌を斉唱する参列者

神職の退場のあと、中原理事長は本学創立一〇五周年の挨拶に立ち、「日本歯科大学では新しい事業を展開している。現在の経済や社会、入学試験の状況からみて新事業が適当か法人理事会等で五カ月ほどディスカッションした。

それは附属病院の羽村章病院長、口腔介護リハビリテーション科の菊谷武教授からの提案で、口腔リハビリテーションに特化した歯科クリニックを、東小金井に開設するという計画だ。高齢者や有病者、老健施設にいる方々のニーズはますます増え、今後拡大すべき領域であることは間違いない。

口腔リハビリテーションの診療科は、わが国には未だないので、モデルになる診療所を開設し、

事がおのおの玉串を捧げた。

中央線東小金井駅前の土地を活用し、鉄筋コンクリート三階建て、延べ床面積で一五〇〇平米、四五四坪の建物を新築する。その中に摂食機能訓練室、言語訓練室など口腔リハビリテーションに必要な施設を設置する。

診療内容は、摂食嚥下障害者、言語障害者、機能性咬合障害患者、障害児者歯科患者に対するリハビリテーションなどで、このクリニックを拠点に、周囲の老健施設や病院への往診を行う。

小金井市は七つの市と接し、多摩全体では四二〇万の人口、老人施設が二四六、二万四千人の高齢者が入所している。多摩クリニックを開設すれば、東京都の東と西、飯田橋と東小金井で、両病院が連携をとりな

から、口腔リハビリテーションの患者さんのため活動できる拠点となる。日本の社会全体が沈下しているときに、守りではなく逆に攻めの戦法を展開する。本学にはそれだけの余力があり、将来に大きく活かせる事業にしたい。準備室長を住友生命歯学部部長が務め、来年の秋には開院する予定で進めている。

このたび、校友会の会長に近藤勝先生が就任された。光安一夫先生には、約十年間校友会会長としてご尽力いただいた。学校法人の理事・評議員としても、十年間お務めいただき厚く感謝を申し上げますたい」と述べた。

ついで近藤校友会会長は、「先週の土曜日、校友会総会で光安会長のあとを受けて会長に選任された。今日が任期のスタートとなる。この一世紀余の中で歯科医師を養成するといふ社会的な使命を果たし、研究や臨床でも歯科界に多くの人材を輩出してきたことが、母校の素晴らしさだと思う。光安会長の下で経験してきたことを活かしながら、母校の発展のため努力していきたい」と述べた。

次に永年勤続者表彰に移り、三十年勤続者として二十一年勤続者が壇上に上がり、代表者が中原理事長から表彰状と記念品を手渡された。

表彰者を代表して、孝之教授(生命歯学部化

三十年の間に教育環境は劇的に変化した。小中高校の教育は詰め込み教育からゆとり教育へ、さらに授業時間の増加へと目まぐるしく変更された。私どもがこの変化に則して教育を行えたのは、その時々々に授業方法、カリキュラム、設備などの教育環境を適切な状態へと、本学が迅速に対応してくれたお陰だ。これからも気を引き締めて、日本歯科大学発展のために、各々の部署で職務に全力で励みたい」と謝辞を述べた。

ついで羽坂勇司名誉博士、光安一夫前校友会会長、古本啓一名誉教授ら来賓が紹介され、参会者から万雷の拍手を受けた。

おわりに、附属病院歯科麻酔・全身管理科の阿部恵一講師の指揮により、校歌を斉唱して午

- 前十一時四十分閉式した。
- ☆三十年勤続表彰 (生命歯学部)
 - 孝之(化学)
 - ☆二十年勤続表彰 (生命歯学部)
 - 神田小鶴(看護科)
 - 中島田鶴子(看護科)
 - 荻部洋行(小児歯科学)
 - 前田宗広(歯科保存学)
 - 伊藤 弘(歯周病学)
 - (附属病院)
 - 山崎孝子(総合診療科4)
 - 野村正子(歯科衛生学)
 - 岩崎信一(先端研究センター)
 - 新海航一(歯科保存学)
 - 長田敬五(生物学)
 - 渡部孝文(用度管理)
 - 伴 美幸(教務部学生部)
 - 山岸礼子(庶務部)
 - (新潟病院)
 - 黒川裕臣(総合診療科)
 - 前山重則(放射線科)
 - (医科病院)
 - 菅原芳秋(中央検査科)
 - 小林芳子(看護科)
 - (新潟短期大学)
 - 帆苅初枝(看護科)
 - 浅沼直樹(歯科衛生学)

田中准教授(新潟病院) 医療マネジメント学会で表彰

新潟病院口腔外科の田中准教授(地域歯科医療支援室)らは、第十三回日本医療マネジメント学会学術総会のポスター部門優秀演題に選ばれ、表彰された。

六月に京都市で開催された同学会総会は、参加者四千七百名、演題数一〇七六で、今回優秀演題中の一題として表彰された。田中准教授が新潟市歯科医師会、信楽園病院看護部と共同発表した「シームレスな在宅歯科医療を目指した退院時力

本学教員の定年を65歳に

本学は、三月開催の法人理事会で、二十四年四月一日付法人諸規程の制定および改正を決議した。これに関して、七月に東京・新潟の両キャンパスにおいて教職員への説明会が開催された。

説明会では、中原理事長ならびに小倉・住友各

理事が、新たに制定される「学校法人日本歯科大学教職員定年規程」について、教員の定年を現在の満七十歳から満六十五歳(日本歯科大学教授は満六十八歳)に変更するなどの詳細な説明を行い、他の改正規程をふくめて教職員の理解と協力を求めた。

